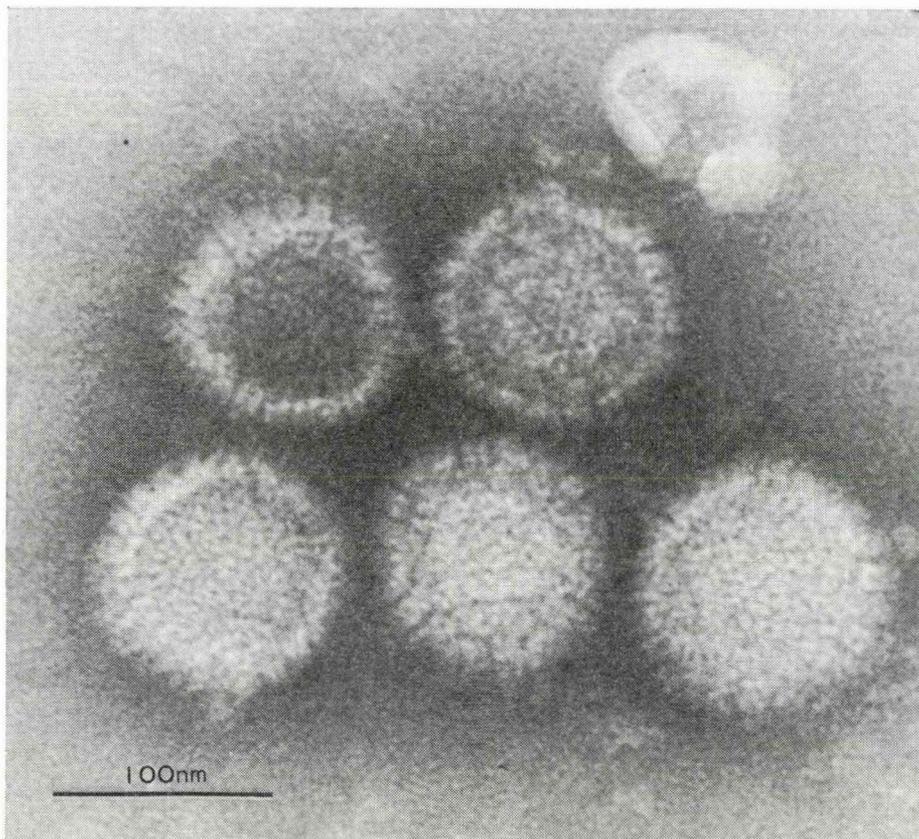


京大広報

No. 220

京都大学広報委員会



EBウイルス：スケールは 100 nm（上咽頭癌の原因のひとつ） 一関連記事本文 147 ページ

目 次

沢田総長，オーストラリア連邦の大学等を訪問……	142	人文科学研究所夏期公開講座……	144
工学部公開講座「工学と人間」……	142	農学部・牧場新営施設が完成……	144
第4回京都サマー・インスティテュート		防災研究所・穂高砂防観測所新館が完成……	145
「大統一理論とその周辺」……	142	<随想>	
東南アジアセミナー……	142	歴史は歴史として……名誉教授 岡部利良…	146
公開講座 高等学校関係者のための現代数学展望…	143	<紹介>	
公開講座 高等学校教員のための現代化学……	143	ウイルス研究所・ウイルス診断研究施設……	147
公開講座「農業簿記・農業経営講習会」……	144	訃報・日誌……	147

＜大学の動き＞

沢田総長、オーストラリア連邦の 大学等を訪問

沢田敏男総長は、8月27日から、オーストラリア連邦の高等教育・研究機関の視察及び学術交流に関する意見交換を行なうため同国を訪れ、予定

どおりの旅程を終えて、9月8日帰国した。

今回の訪問は、オーストラリア大学長協会の招きによるもので、マッコリー大学、シドニー大学、ニュー・サウス・ウェルズ大学、オーストラリア国立大学、グリフィス大学及びクインズランド大学等を訪問し、各訪問先においてそれぞれ関係者と意見交換を行なった。

＜部局の動き＞

工学部公開講座「工学と人間」

工学部では、6月20日から7月11日までの毎土曜日の午後、工学部大会議室において公開講座を開催した。

この公開講座は一般市民を対象にしたもので、工学部の名誉教授・教授・助教授が各自の研究分野と人間のかかわり合いをわかりやすく解説することを主眼としたものである。今年のテーマは「工学と人間」であり、約160名が受講した。

講義題目、講師は次のとおりであった。

自然と人間と工学

- | | |
|-----------------|------|
| — 巨大分子の科学の誕生 — | 西島安則 |
| さび（錆）と生活 | 山川宏二 |
| 人間の地下への挑戦 | 寺田 孚 |
| 機械工学と人間 | |
| — 歯車の歴史の教えるもの — | 会田俊夫 |
| 町家からタウンハウスへ | 三村浩史 |
| 地震と都市 | 山田善一 |
| 繊維の風合い | 川端季雄 |
| 人工知能 — 機械の知能化 — | 坂井利之 |
- (工学部)

第4回京都サマー・インスティテュート 「大統一理論とその周辺」

基礎物理学研究所では、6月29日から7月3日まで、第4回京都サマー・インスティテュートを開催した。これは、1978年以来毎年、基礎物理学研究所が主催して行なっている国際的会合の第4回目にあたっており、これまでは、第1回に「素粒子物理と加速器計画」、第2回に「低次元系の物理」、第3回に「アモルファス半導体の基礎物理学」をテーマとしてとりあげてきた。

今回は、素粒子物理の中で現在もっとも活発に

議論されているテーマの一つである、素粒子の大統一理論をとりあげ、講演とセミナーと熱心な討論が行なわれた。参加者は国内はもとより、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、東欧の諸国に及び、招待講演の講師10名を含め150名であり、主な講演者とその題目は以下のとおりであった。

大統一理論の新方向に対する賛否両論

H. Georgi (米国 Harvard 大学)

格子ゲージ理論：成果と問題点

C. Itzykson (フランス Saclay 研究所)

大統一理論時代の物語

D. V. Nanopoulos (スイス CERN)

フェルミ粒子の混ざり合いと質量

S. Pakvasa (米国 Hawaii 大学)

C P 保存則の破れ—「柔らかい」か「硬い」か？

R. Peccei (西ドイツ München-Max-

Planck 研究所)

大統一理論 講義

P. Ramond (米国 Florida 大学)

真空の第一種相転移の宇宙論に及ぼす影響

佐藤勝彦 (京都大学理学部)

陽子の崩壊について

友沢幸男 (米国 Michigan 大学)

宇宙論と重粒子生成

吉村太彦 (高エネルギー物理学研究所)

「世代」の問題と直交統一、その他

A. Zee (米国 Washington 大学)

(基礎物理学研究所)

東南アジアセミナー

東南アジア研究センターでは、7月17日から30日までの間（日曜日を除く）、楽友会館を主会場として、「昭和56年度東南アジアセミナー」を開催した。

このセミナーは、東南アジア地域における自

然、文化、社会について総合的に概説し、専門的研究に必要な基礎知識を与えようとするものであるが、本年度はとくにテーマを「インドネシアと島嶼部の世界」にしぼって、講義の密度を高くした。セミナーには各大学の大学院学生を中心に、学部学生や研究者など48名が参加し、連日午前9時から午後4時半まで熱心に受講した。

なお、講義題目、講師は次のとおりであった。

〔資料紹介〕 北野康子

〔概説〕

- | | |
|----------|------|
| (1)自然と生業 | 高谷好一 |
| (2)民族と社会 | 前田成文 |
| (3)政治と文化 | 土屋健治 |

〔言語と歴史〕

- | | |
|------------------|-------|
| (1)インドネシア諸語の位置づけ | 三谷恭之 |
| (2)東南アジア史とインドネシア | 桜井由躬雄 |
| (3)インドネシア史 I | 深見純生 |
| (4)インドネシア史 II | |

Adrian Bernard Lopian

〔宗教〕

- | | |
|-------------|------|
| (1)東南アジアの宗教 | 石井米雄 |
| (2)ジャワの宗教 | 関本照夫 |

〔経済と人口〕

- | | |
|----------------|--------------|
| (1)東南アジアの南北問題 | 江崎光男 |
| (2)インドネシアの経済発展 | 市村真一 |
| (3)人口問題の諸相 | 小林和正
坪内良博 |

〔政治〕

- | | |
|------------------|------|
| (1)現代政治 | 土屋健治 |
| (2)国際政治の中のインドネシア | 松尾大 |

〔地域特論〕

- | | |
|---------------|--------------|
| (1)気候と土壌 | 安成哲三
古川久雄 |
| (2)トラジャの農業 | 高谷好一 |
| (3)トラジャの社会と文化 | 山下晋司 |
| (4)ブギスの農業 | 田中耕司 |
| (5)ブギスの社会と文化 | 前田成文 |
| (6)スマトラの農業 | 古川久雄 |
| (7)スマトラの社会と文化 | 坪内良博 |

〔総括および総合討論〕

渡部忠世
矢野暢
外教官若干名

(東南アジア研究センター)

公開講座 高等学校関係者のための 現代数学展望

この講座は、発展著しい現代数学の理解のための基礎とその展望を、主に高校教員を対象にわかりやすく解説するため、理学部数学教室が行なったもので、今年で3回目である。今回は下記のテーマにより7月24日から30日まで、日曜日をのぞく6日間行なわれ、近畿一円、北陸、四国から約40名が参加した。会期中に参加者有志と講師との間で懇談の機会が設けられ、卒直な意見が交換され、受講者からは今後ともこの催しを続けてほしいという強い希望が出された。

講義内容と講師は次のとおりであった。

解析学の話 — カオスとランダムネス —

山口昌哉

確率の話 — 確率の概念と最適計画への応用 —

渡辺信三

幾何学の話 — 球面を変形してうらがえす話 —

足立正久

代数幾何の話 — 平面射影曲線を主に、代数幾何学の紹介 —

丸山正樹
(理学部)

公開講座 高等学校教員のための 現代化学

今日、実験を伴う学問分野で高等学校の教育に当る先生方は、研究現場の雰囲気には接する機会が一般には少ない。これを補うことを目的として、理学部化学教室は、標記の公開講座を7月24日から30日まで実施した。教室で行なわれている研究分野の中から、実験・演習を中心として講座を構成し、27名が受講した。

アンケート調査の結果と懇談会においては、今後も同じ趣旨の講座を続けて開くことを熱望する声が多かった。講座の実施に当たった教室のスタッフにとって、一時的に見れば一週間の負担は大きい。また小規模の公開講座に速効を期待することは元来無理な話である。同趣旨の講座が、各分野や他の大学でも実施されるならば、それは大きな力となるであろう。

なお、今回の講座の構成は次のとおりであった。

I 講義 (毎日午前10時から12時まで)

固体表面と触媒	恩地 勝
水の話	山本常信
低次元伝導性をもった化合物	辻川郁二
分子の励起状態	志田忠正
環境化学	桑本 融
化学とエネルギー	丸山和博

II 実験・演習 (毎日午後1時から5時まで)

各受講者は下記4つのコースから1つを選んだ。

A 励起分子の反応 (有機化合物の光励起状態の反応性と基底状態のそれとの違いを探る。)

山本嘉則 大槻哲夫 成田吉徳 立川 登

B 不定比化合物の結晶化学 (組成比の一定しない化合物を合成しその構造解析を行う。)

小菅皓二 村上勇一郎 上田 寛

C 磁気共鳴と分子構造 (不対電子をもつ有機化合物をつくり、常磁性共鳴吸収を観測して、その電子状態を探る。)

広田 襄 大矢博昭 山内清語

D 電子分光と表面化学 (超高真空をつくり、低速電子回折により固体表面の原子配列を観察する。)

恩地 勝 西嶋光昭 匂坂康男 高木 修
(理学部)

公開講座「農業簿記・農業経営講習会」

農学部・農業簿記研究施設では、8月1日から6日までの間、農学部講義室において公開講座「第45回農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画に関する理論と実務の普及をねらいとしたものである。講習には農業改良普

及員、高校教員、府県・各種団体職員、農家など全国各地から約130名が参加し、連日午前9時から午後5時まで受講した。講義科目、講師は次のとおりであった。

農家経済簿記	菊地泰次	稲本志良	桂 利夫
農業経営複式簿記	頼 平	桂 利夫	
農業投資および資金の計画・管理・分析			
	亀谷 晁	稲本志良	
農業経営および地域農業の診断・分析・計画			
	西村博行	熊谷 宏	宮崎 猛
			(農学部)

人文科学研究所夏期公開講座

人文科学研究所では恒例の夏期講座を8月1日から3日間、本館(吉田牛ノ宮町)において開催した。

この講座は、本研究所に日本部、東洋部、西洋部の三部ができてのち、毎年の夏に開催されており、本年は32年目になる。今年の共通テーマは「中央と地方」であり、中央と地方あるいは周辺との関係を、文化、政治、経済などの分野で考察し、あるいは現時点から捉え直してみることであった。本年も3日間とも約100名の熱心な受講者があった。

演題、講師は次のとおりであった。

工業化発展における中心国と周辺国	山本有造
明治国家における地方の編成	古屋哲夫
雲夢出土秦律と秦の地方統治	江村治樹
黄庭経と大洞経 一 道経における体内神と内観	
について 一	麥谷邦夫
粘土板楔形文書の成立と伝播	前川和也
ヨーロッパの“僻地”ブルターニュ	

多田道太郎

(人文科学研究所)

農学部・牧場新営施設が完成

農学部・牧場の新営施設の竣工式典が8月11日(火)、京都府船井郡丹波町の本牧場で、関係者約50名が出席して行なわれた。

式典は午前11時に始まり、深海 浩農学部長の式辞に続いて、沢田敏男総長の祝辞(事務局長代読)、本牧場善林明治助教授の牧場施設整備報告

があり、午前11時30分に終了した。

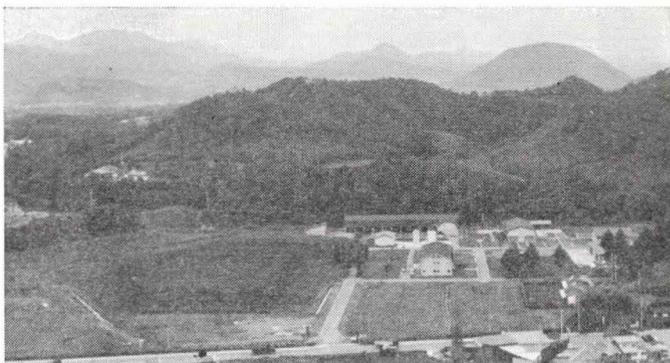
本牧場は旧蒲生野原海軍演習場の一部と、海軍廠舎の旧施設のあった現在地を、京都学芸大学(現京都教育大学)と昭和28年11月以来共同で利用していたが、昭和35年7月に全施設の本学への所属換えを経て、現在に至るまで、旧海軍施設をほとんどそのまま使用してきた。この間、とくに建物はすべて第二次大戦末期に急造したもの

であるため老朽化が著しく、危険な状態のままで使用されていた。昭和49年の牧場官制化を機に、施設整備を要望していたが、その努力が実り、昭和53年度と昭和55年度の2年度に亘り、ほぼ全施設の新営工事が施され、今年6月24日にすべてが竣工したものである。

新営建物は以下のとおりである。①管理・宿泊・研究用の各室を備えた鉄筋コンクリート2階建の管理宿泊棟、延939㎡。②1,309㎡のパドックを附設した鉄骨造り、収容頭数100頭の開放式繁殖育成牛舎、988㎡。③牛枝肉の諸調査をするための大型冷蔵庫を備えた鉄筋コンクリート平屋建の枝肉解体施設棟、147㎡。④364㎡のパドックおよび254㎡の中二階をもつ鉄骨造り、収容頭数51頭の開放式肥育牛舎、463㎡。⑤鉄骨造り、トラクター等大型農機具収納用大農具舎、487㎡。⑥鉄骨造り、羊・山羊飼育用中小家畜舎、293㎡。⑦鉄骨造り堆肥舎2棟、計300㎡。⑧危険物倉庫、8㎡。⑨斃獣焼却施設1基。以上合計約3,625㎡の建物の建築と延5,692㎡の場内舗装と正門および中水道用井水施設が施工された。

また、施設整備の一環として従来より粗飼料生産基盤拡充のために、新圃場の取得を希望していたところ、このたび牧場に隣接した13,478㎡の圃場用土地の取得が新たに実現した。

以上、今回の新営工事では全体の整備計画のうち設備面で予定している何点かを除き、ほとんどが新営された。これらの新営建物は各所に新しい工夫が加えられ、機能的に旧施設に比べて格段の改善がされている。牧場では肉用牛とめん羊および山羊を飼育し、学生の実習教育では、これらの家畜の飼育管理技術と牧草および飼料作物の生産・加工・貯蔵の各技術を習得させている。また研究は①肉用牛の肉生産能力と産肉効率について肥育方法・品種および系統などの面からの検討、②黒毛和種の粗飼料利用能力と産肉能力の遺伝学的検討、③繁殖牛と子牛の集約的管理方式下での生産性と牛の社会・生態学的検討など肉用牛の生産能力および管理技術に係る問題点の検討を進めている。今回の建物の整備と新しく加わった圃場



牧 場 風 景

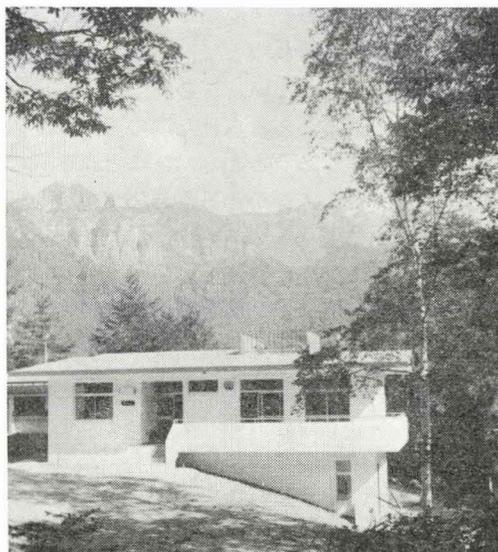
による粗飼料生産能力の向上は、今後本牧場の実習教育の充実と研究の発展に大きく寄与するものと期待される。

(農学部)

防災研究所・穂高砂防観測所新館が完成

このたび防災研究所・穂高砂防観測所の新館が完成し、新しく流砂自動観測採取装置が設置されるなど観測設備も整備され、8月24日(月)、沢田敏男総長をはじめ学内外から関係者約70名の出席を得て、竣工披露式を挙行了した。

穂高砂防観測所は昭和40年以来、土砂災害の防止を目的として砂防に関する観測研究を続けているが、設備や研究資料の増加に伴い今までの研究棟が狭小となり新館の完成が待たれていたものである。



(防災研究所)

〈紹介〉

ウイルス研究所・ウイルス診断研究施設

たとえば、本学医学部附属病院の某科の入院患者のひとりに“脳炎”という臨床診断がでたとする。それではこの脳炎の原因ウイルスは何かということになる。そしてそのウイルス検査のための血液や髄液が採取され、本ウイルス診断研究施設にもち込まれる。この研究施設では、ウイルス分離や抗体検査という方法で病原ウイルスの診断をする。その結果、日本脳炎ウイルス、或いは単純ヘルペスウイルスとでることもあるだろうし、残念ながら病原不明ということもある。このように人間のウイルス感染症と思われる患者の病原ウイルスの診断が本研究施設の日常業務としてここ約20年間行なわれてきた。このようなウイルス検査を行なう施設があるのは、大学としては本学だけであろう。

ひとくちに人間の病原ウイルスといっても今わ

かっているだけでも数百種類ある。本研究施設は本学のみならず、学外の病院・医院からの検査をもひきうけて、これまで膨大な数の検体を処理してきた。この間にウイルス学の進歩はめざましく、次々に新しいウイルスが発見され、それが検査の対象に加わってきた。たとえば従来は感染症の域外にあった数種の慢性神経疾患や悪性腫瘍（癌）にもそれぞれ特有のウイルスとの関連が明らかになってきた。また診断方法にも新しい原理と技術が導入されてきた。たとえば標識抗体法や細胞培養法などである。本研究施設の研究は、医学の進歩の要望を担って従来の“既知病原ウイルスの診断”から、“新しい病原ウイルスの探索と発見”へと大きく変貌しながらその内容が充実されつつある。更に危険な病原ウイルスをより安全に検査、研究のできる検査・研究室の充実が要求されている所以である。

(ウイルス研究所)

計報

関口錠太郎（本学名誉教授）

7月21日逝去，84歳。東京帝国大学農学部卒。昭和11年本学農学部教授就任，同34年退官。その間評議員（昭和29年～31年），農学部附属演習林長（昭和32年～34年）を歴任。昭和43年勲二等瑞宝章受章。専門は造園学。

谷友幸（本学名誉教授・文学博士）

7月24日逝去，70歳。本学文学部卒。昭和42年本学文学部教授就任，同50年退官。その間評議員（昭和46年～47年），文学部長（昭和47年～48年）を歴任。専門はドイツ文学。

巖俊一（農学部教授・農学博士）

8月7日逝去，51歳。本学大学院農学研究科修了。昭和52年本学農学部教授就任。専門は昆虫学。

桑田義備（本学名誉教授・理学博士）

8月13日逝去，98歳。東京帝国大学理科大学卒。大正11年本学理学部教授就任，昭和17年退官。その間評議員（昭和7年～9年）を併任。昭和17年勲二等瑞宝章受章。昭和37年文化勲章受章。専門は植物細胞学。

増田友也（本学名誉教授・工学博士）

8月14日逝去，66歳。本学工学部卒。昭和37年本学工学研究所（現原子エネルギー研究所）教授就任，同38年工学部教授，同53年退官。専門は建築意匠学。

田村雄一（本学名誉教授・理学博士）

8月15日逝去，76歳。本学工学部卒。昭和32年理学部教授就任，同43年退官。昭和50年勲三等旭日中綬章受章。専門は地球物理学。

瀧野康雄（法学部事務官）

8月17日逝去，51歳。昭和23年理学部勤務。その後工学部を経て昭和38年法学部整理掛に勤務。昭和54年本学永年勤続者表彰（30年勤続）を受ける。

湯川秀樹（本学名誉教授・理学博士）

9月8日逝去，74歳。本学理学部卒。昭和14年本学理学部教授就任，同28年基礎物理学研究所教授，同45年退官。その間評議員（昭和20年～22年），基礎物理学研究所長（昭和28年～45年）を歴任。昭和18年文化勲章受章。昭和24年ノーベル物理学賞受賞。昭和52年勲一等旭日大綬章受章。専門は素粒子物理学。

日 誌

(1981年6月1日～8月31日)

- 6月1日 大学院審議会
- 5日 創立記念行事「音楽会」
- 6日 国連食糧農業機関(FAO)事務局長 Edouard Saouma 氏外5名来学, 総長および関係教官と懇談
- 8日 総長, 大学院生協議会と会見
- 9日 放射性同位元素等管理委員会
- 11日 ウイルス研究所学術講演会
- 12日 環境保全委員会
〃 放射性同位元素総合センター創立10周年記念講演会
- 17日 国際交流委員会
- 18日 創立84周年記念式
〃 名誉教授懇談会
- 20日 工学部公開講座第1日(6月27日, 7月4日, 7月11日)
〃 ビルマ連邦社会主義共和国教育調査団副団長(Rangoon 工業大学学長) U Khin Aung Kyi 氏外3名来学, 総長および関係教官と懇談ならびに学内施設見学
- 23日 建築委員会
- 24日 創立記念行事「学術講演会」
- 26日 同和問題委員会
- 29日 基礎物理学研究所第4回京都サマー・インスティテュート(7月3日まで)
〃 連合王国 London 王立協会副会長 Michael Stoker 卿外1名来学, 総長および関係教官と懇談ならびに学内施設見学(6月30日まで)
- 30日 附属図書館商議会
〃 発明審議委員会
- 7月3日 安全委員会
- 7日 評議会
- 13日 中華人民共和国中国科学院代表团団長(中国科学院秘書長) 郁文氏外7名来学, 総長および関係教官と懇談ならびに学内施設見学
- 15日 国際交流委員会
- 17日 東南アジア研究センター「東南アジアセミナー」(7月30日まで)
- 24日 理学部数学教室公開講座「高等学校関係者のための現代数学展望」(7月30日まで)
〃 理学部化学教室公開講座「高等学校教員のための現代化学」(7月30日まで)
- 29日 学位授与式
- 30日 アフリカ大学連合代表団団長(アフリカ大学連合会長, カメルーン連合共和国 Yaoundé 大学副学長) Victor Anomah Ngu 氏外1名来学, 総長および関係教官と懇談ならびに学内施設見学(7月31日まで)
- 31日 アメリカ合衆国 Southern Illinois 大学総長 Kenneth Shaw 氏来学, 総長および関係教官と懇談
- 8月1日 農学部附属農業簿記研究施設公開講座「農業簿記・農業経営講習会」(8月6日まで)
〃 人文科学研究所夏期公開講座(8月3日まで)
- 4日 タイ王国 Thammasat 大学副学長 Pichai Charnsupharindr 氏外1名来学, 総長および関係教官と懇談
- 11日 農学部附属牧場竣工披露式
- 12日 大韓民国慶北大学訪日代表団団長(慶北大学工科大学長) Kang Chang-Soo 氏外7名来学, 総長および関係教官と懇談
- 24日 附属図書館商議会
〃 防災研究所附属穂高砂防観測所新館竣工披露式
- 27日 総長, 高等教育・研究機関の視察のためオーストラリア連邦を訪問(9月8日まで)